

赴任して2ヶ月が経ちました。初めての海外在住に緊張していましたが、生活にも慣れてきて心地よく過ごしています(現地食も自分の胃にあっているようです)。みなさんから「アフリカは過酷なところだと思っていたけど楽しそう。」「聞いたこともない国だった！」等のコメントいただきましたが、まだまだ知られていないブルキナファソの魅力を紹介していきたいと思ひます。

Quoi de neuf? ▶▶▶ブルキナファソが誇る農業生産物や製品たち

遠い国に思えるアフリカですが、実はすぐ近くの食品や商品はアフリカ産だった、ということも。ブルキナファソ自慢の農産物や製品について紹介します。

	Commodity	Production(\$1000)	Rank
1	Cotton lint 綿	218,367	15
2	Sorghum ソルガム	194,043	9
3	Millet ミレット	185,219	6
4	Groundnuts, with shell 落花生	118,356	18
5	Maize トウモロコシ	101,156	

【カリテ(シアの実)】

日本で女性に大人気のシアバター。このシアがたくさんとなるのがブルキナファソや隣接するガーナ。現地でも女性たちによってシアバターや石けんが日常的に作られている。あのロクシタンのシア製品も、実はすべてブルキナ産のシアって知っていましたか？



シアの種がバターや石けんづくりに使われる。

【胡麻せんべい】

ブルキナファソの対日輸出額第4位はごま。現地でも胡麻せんべいがよく道ばたで売られている。素朴な味でやみつきに。



【カラバス】

現地でよく飲まれているDoloという地酒や水を入れて飲むための器。カラバスという植物の実をくり抜いて作る。これで飲むとなんでもおいしく感じるから不思議。写真はブル族のもの。サラダを入れてもオシャレ。



カラバスの実



【かご雑貨&パーニユ製品】

竹やエレファントグラスという植物を用いて作るかごバックや小物入れは見た目のかわいさだけでなく、丈夫なので買い物や家事に◎。現地の布「パーニユ」を用いたワンピースやポーチ、バックなどの製品もたくさん。どれも、土色のアフリカの大地に映える、色鮮やかなものばかり。

【伝統的な薬】

市場に行くに必ず目にするのが、動物のさまざまな部位を使った薬。カメの甲羅、カワセミの頭、獣の皮... 最初見るとゾッとしますが、昔から使われている薬は効き目大...? ←これはゾウの糞。薬を作る大切な材料。

Qu'est-ce que c'est? ▶▶▶【ブルキナの結婚事情】異なる民族でも結婚ってできるの?

異なる民族同士で夫婦になったJaqueさんとLoriaさん。2人の子どもにも恵まれ幸せいっぱい2人がブルキナの結婚事情について教えてくださいました。

*Jaqueさん(モシ族) × Loriaさん(サモゴ族)の場合:

Q) 子どもは何族になるの?

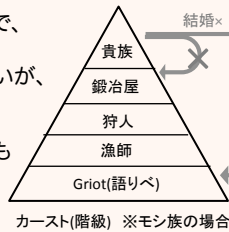
A) モシ族。子どもたちはお父さんの名字を継ぐので自動的にお父さんと同じ民族になる。(名字で民族を判断する。通信3号参照。)

※まめ知識:ブルキナファソでは、子どもの親権は必ず父親。離婚すると父親が子どもを預かる。(乳飲み子であれば、大きくなったら母親から父親へ預けられる。)

Q) 相手と結婚したい時、または出会ったとき、どの民族が気に入った? また、他の民族と結婚することについて、反対されなかった?

A) 名字で何の民族かすぐわかるので、自然と相手の民族は意識したが、**モシ族とサモゴ族はAmitié(友達関係)**だから

まったく問題なかった。ちなみにJaqueさんはモシ族の貴族階級なので、本来は鍛冶屋階級、griot(語りべ)階級、もしくはブル族(遊牧民)と結婚していけないが、現代は宗教も多様化(=伝統的な宗教・interdit:禁止事項が緩和)してきて、どの民族とも結婚できるので、いずれにしても問題ない。地域によっては、未だにinterditを気にして結婚相手を選んでいる。(父親が息子娘の結婚相手を選ぶなど)



カースト(階級) ※モシ族の場合

民族間のAmitiéとは...

64もの民族が暮らすブルキナファソでは、各民族にAmitié(友達関係)の民族があります。ホボ族はブル族とAmitié、グロシ族・ピサ族・ヤデガ族は3民族でAmitié。なぜAmitiéになったのか、その由来に関する伝説が「おとぎ話」として父から子へ代々語り継がれます。そして、この話を元に、民族同士で冗談を言ったりするのです。

【モシ族×サモゴ族のAmitiéおとぎ話】

モシ族の妻は、zomkouとい飲み物を作って夫に飲ませる習慣があり、家に保管しておく。ある日、1人のサモゴがある家のzomkouを盗んだ。モシは「サモゴがzomkouを盗んだ!」と言ったが「盗んでない」の一点張り。結局認めないサモゴに向かい、モシは「Samigo yaa yarma(サモゴはbête(愚か者、けだものだ))と言ひ、サモゴもモシに「Mossinaaba beer gi ra(モシはbêteだ))と言った。

★JaqueさんとLoriaさんもけんかすると、相手を「bête」と呼んだり「モシは言ひがかりをつけるからな〜」と冗談で言ひあつたりするんだとか。★地域のスポーツ大会では、わざとAmitiéの民族同士が対抗するような対戦表を組むことも。景品はその伝説に出てくる、相手の民族が盗んだとされるピーナッツや犬の肉だったりする。(何かを盗むという伝説が多い...)

クイズ du Burkina

Q1.ブルキナファソで食べられる食材。当てはまらないものは?

- ①イヌ ②コウモリ ③ゾウ

Q2.アフリカの国々で国旗に良く用いられる赤・緑・黄の三色。(例参照)

それぞれの色に含まれる意味は? またこれらは、元々ある国の旗の色を他の国々が採用したといわれている。この3色を最初に使用していた国はどこでしょう?

★3色(赤・緑・黄)を採用する国々の例



セネガルの国旗



お隣ベナンの国旗



ブルキナファソの国旗

Ensuit? ▶▶▶ブルキナで行われている日本の支援とは?



「謎の国」として知られるエチオピア。アフリカの中心にあり、多くの国と国境を共有している。また、アフリカの発展に貢献している。日本の支援は、教育、医療、農業など多岐にわたる。特に、女性のエンパワーメントに力を入れている。日本の支援は、ブルキナファソの発展に大きく貢献している。



任地で出席した結婚式にて。朝から晩まで多くの人が花嫁の家を歩きまわります。